

ウェルビーイングの改善が、医療費抑制、生産性維持、社会的安定の観点から行政・企業・地域が一体となって取り組むべき最優先の政策課題であり、単に経済的・健康的な機会を確保するだけでなく、それらの基盤となる人生の充実・楽しみを感じられる環境づくりがウェルビーイング向上には欠かせないということが示唆されている（内閣府『満足度・生活の質に関する調査報告書2024～我が国のWell-beingの動向～』）。ウェルビーイングの向上には、人間や社会の喜びや楽しみ、幸せや活力に繋がるポジティブな感情や行動を促進する公共サービスが不可欠である。『地方創生2.0基本構想』にもあるように、国は、構造変化の前提条件として、「縮小・成熟社会対応型の持続可能地域」を目指すこととしており、若者や女性も含めた多様な地域のステークホルダーを巻き込むことができる「要」としての人材が社会に必要とされている。今日の地域課題は、経済・地域・社会・環境の各方面でますます複雑かつ多様でその複合度が増してきており、短期的かつ単発的に解決が出来るものではなく、長期的かつ持続的に粘り強く取り組むことが出来る人材がこれまで以上に求められている。こうしたことから、高知大学地域協働学部新たに「パブリックイノベーション学科」を設置し、「地域協働公共人材」の養成を強化する。

社会的背景や必要性

1. 人間や社会の楽しみ、喜び、幸せの重視

2. 公共人材における専門性の重視、必要性

3. 多様な地域主体間の協働の軸（要）となる公共人材の重要性

4. 新たな公共的価値を創出するための粘り強い取組の必要性

養成する人材像

新設する地域協働学部 パブリックイノベーション学科では、「地域協働公共人材」を養成する。「地域協働公共人材」とは、地域理解力・企画立案力・協働実践力を統合した「地域協働マネジメント力」を基礎に、公共政策の基本を理解し、人間や社会の喜びや楽しみ、幸せや活力に繋がるようなポジティブな要素を持った「教育・スポーツ」「生活・福祉」「文化・デザイン」などの公共サービス領域において、新たな社会的・公益的価値を創出できる人材である。

カリキュラムマップ

1年生

2年生

3年生

4年生

知識・技法の習得

共通教育

大学基礎論・学問基礎論・課題探究実践セミナー etc.

基礎科目

パブリックイノベーション論、地域産業経済論、地域社会学概論、生涯学習概論Ⅰ、社会調査論、社会調査方法論、ファシリテーション演習、地域協働サービスラーニング演習

総合科目(含:資格関連)

社会調査データ分析、統計解析の基礎

公共創生・ガバナンス
共通基盤領域

公共創生・まちづくり論、リスクマネジメント論、公共価値可視化論、社会的起業論、ソーシャルキャピタル論、行政実務講座、ランドスケープ実践演習、協働的学びと地域イノベーション

A:教育・スポーツ分野

生涯学習支援論、社会教育経営論Ⅱ、生涯学習と市民協働、スポーツ社会学、スポーツボランティア演習、スポーツ運動学、スポーツ心理学、スポーツ実技、健康運動指導論、健康体力調査方法論

B:生活・福祉分野

地域福祉論、サードプレイス演習、ジェンダーと地域社会、労働・生活とジェンダー、くらしと環境Ⅰ・Ⅱ、社会的包摂論、福祉経済論、家庭経営学

C:文化・デザイン分野

デザイン論Ⅰ（基礎）、デザイン論Ⅱ（応用）、日本画、文化芸術特論、NPO論、ソーシャルファイナンス論、持続可能な地域計画論、地域協働ビジョン演習、地域映像クリエイション演習

多変量解析、質的調査法、社会調査実践演習、生涯学習概論Ⅱ、社会教育経営論Ⅰ、産学官民連携論、チャレンジ演習

演習・実習フレーム

パブリックイノベーション入門演習

分野別演習@イノベーションLAB（仮）

A:地域協働総合演習（教育・スポーツ分野）（実習含む）Ⅰ～Ⅳ

B:地域協働総合演習（生活・福祉分野）（実習含む）Ⅰ～Ⅳ

C:地域協働総合演習（文化・デザイン分野）（実習含む）Ⅰ～Ⅳ

イノベーションフレーム

パブリックイノベーション演習Ⅰ

パブリックイノベーション演習Ⅱ

研究フレーム

（アカデミックスキル）

地域協働研究Ⅰ

地域協働研究Ⅱ

パブリックイノベーション
実践演習

卒業研究

演習（実習）×研究

※ 本件は、設置申請中のものであるため、設置審査等の過程で授業名称や内容等が変更となる可能性があります。